

## 巻頭言

## 日本地域看護学会と社会貢献について



北山三津子

岐阜県立看護大学看護学部

日本地域看護学会誌, 23 (1) : 3, 2020

日本地域看護学会の中核的な事業のひとつである日本地域看護学会誌の発行は、従来冊子体で年3回発行してきたが、本第23巻第1号(2020年4月発行)から電子媒体のみとなる。この変更は、編集委員会および理事会で検討して得た結論である。

これまでの経過を振り返ると、研究成果を広く社会に公表するため2013年から電子化を開始しCiNiiに公開していたが、第19巻1号からはバックナンバーを含めて科学技術情報発信・流通総合システム(以下、J-STAGE)で公開することとなった。公開時期は、会員のメリットを考慮して冊子体発行の1年後として現在に至っている。今回の変更では、わが国はもちろん、世界的にさまざまな学会誌が電子ジャーナル化されている現状にあって、多くの人々に、より早く研究成果を届けることを目指して、電子媒体で即時公開することを決定した。そのため、日本地域看護学会のホームページ上での公開と同時にJ-STAGEにおいて公開することとした。つまり、社会に広く・迅速に研究成果を発信することは、看護学教育・実践の質の向上と看護学研究の発展に有益であり、学会および論文の著者にとっては社会貢献につながる考えた末の結論である。また、冊子体の発行に要していた印刷費や郵送費を学会の目的を達成するために必要な他の学会活動に当てることができるようになるという点も考慮した。会員のみなさまには、今回の変更の趣旨についてご理解いただき、日ごろの研究成果を論文としてまとめ、積極的に投稿していただきたいと考えている。

筆者は、上記のことをきっかけにして、学会のあり方を考える機会を得たが、同時期に新型コロナウイルス感染症の感染拡大が世界的に急速に進行し、人々の健康生活が多方面から脅威に曝される状況となり、改めて本学会の社会貢献について問われていると考えた。

日本地域看護学会の定款に明記されている目的には、「本会は、地域看護学の学術的発展と教育・普及を図り、人々の健康と福祉に貢献することを目的とするとともに、目的を達成するため、次の事業を行う。(1)学術集会の開催、(2)学会誌の発行、(3)研究活動の推進、(4)研究論文の表彰、(5)国際的な研究協力の推進、(6)その他、この法人の目的達成に必要な事業」と明記されている。

学会では、新型コロナウイルス感染症の感染対策にあたる人々や地域看護の活動に取り組む人々に活用していただくために、いち早く「新型コロナウイルス関連情報特設サイト」を開設した。また、支援システム体制の構築のためのワーキンググループ「2020日本地域看護学会新型コロナウイルス支援システム作成WG(仮称)」を立ち上げるとともに、厚生労働省の要請を受けて幾つかの支援を実施している。今後、厚生労働省、自治体、その他関連団体から学会に応援要請があった場合にタイムリーに対応できるようにするための体制づくりや支援者間のネットワークづくりおよび情報交換のシステムづくりに着手している。

これらの活動を学会の目的に照らしてみると、地域看護学の学術的基盤をもつ教育者、研究者あるいは実践者である会員が、人々の健康と福祉に貢献するための諸活動を行うことは、正しく社会貢献であり、会員の活動を組織化し、活動から得られた知見を社会に還元することが学会の社会的責任といえることができるのではないだろうか。この学会が行う社会貢献については、会員間で更なる議論がなされることに期待したい。